

令和2(2020)年度

日本特別活動学会 第7回 実践事例募集事業

## 推奨実践事例

事例番号 7-3

ICT技術活用の可能性を追求した学級活動(3)の実践

～ AI テキストマイニングの活用を通して ～

(福岡県)筑後市立西牟田小学校

野中 大輔(ノカ ダイスケ)

実践テーマ	ICT技術活用の可能性を追求した学級活動(3)の実践 ～AIテキストマイニングの活用を通して～
実践区分 ○囲み	学級活動・ホームルーム活動 児童会・生徒会活動 クラブ活動 学校行事 その他(具体的に、小学校第6学年における学級活動(3)の実践)
実践事例の 背景、ねらい、 意義など	授業づくりにおいて「アンケート」は学活のみならず全ての教科において児童の実態把握に欠かせないツールの一つとなっている。特に児童の思いや願いを重視する学級活動においては、自分や集団の現状から課題をつかませるためにアンケート結果を活用する実践が数多く見られる。アンケートは、教師が質問項目を作成している場合がほとんどだろう。このアンケートの質問項目について疑問を抱くエピソードがあった。ある私立高校のホームルーム活動を参観した際の生徒の一言である。その高校では授業評価という形でアンケートを実施していたようだが、その生徒が言うには「アンケートには自分たちが答えたい、先生に本当に言いたいことの項目がない。だから結局、面倒になって『特になし』と書く。」というのだ。つまり、教師が与える質問項目と児童生徒が「答えたい」と思っていることは必ずしも一致しないということだろう。学級活動の授業においても、アンケートは教師が意図する授業展開にするために嫌いたルールの上に児童を誘導するためのものになっていないか。これまでの自分を振り返り、これからの自分を高めていくための視点は、教師から与えられるものではなく、児童自らが視点を見定めていく必要があるのではないかと感じた。そこで、この実践では、学級活動(3)において、「AIテキストマイニング」を活用して「個人のめあて」に込められた児童の思いや願いを分析した。そして分析結果を基に作成した振り返りの視点を起点とする学習を展開することを試みた。
実践の時期	平成 <del>30</del> 令和 2年 9月

## 【実践事例】

○実践学級 K 小学校 第 6 学年 A 組 35 名

○実施時期 令和 2 年 11 月上旬

○内容項目 (3) 一人一人のキャリア形成と自己実現

ア 現在や将来に希望や目標をもって生きる意欲や態度の形成

○題材 在りたい自分になるためにできること

### ○実践前の準備

テキストマイニングとは、日経リサーチによると「文章を定量的に扱うための分析手法であり、アンケートの自由記述や、コールセンターへの問い合わせ内容、Twitter など SNS でのクチコミ分析といった分野で活用されている」とされる。現在、企業向けのテキストマイニングが数多く開発され、市場調査等の目的で近年幅広く活用されているが、この授業実践において活用したのは、株式会社ユーザーローカルの「AI テキストマイニング」(<https://textmining.userlocal.jp/>) である。

さらに、日経リサーチによると、テキストマイニングの利用に適している活用シーンは、「①全体像を把握する」「②特徴を抽出する」の 2 点である。このことから、テキストマイニングの特性を生かし、第 6 学年 A 組 35 名分の個人のめあてを解析すれば、目標達成への意識の全体像や特徴、つまり子供たちが在りたい自分になるために必要だと意識する視点を抽出することができると考えた。この視点は、アンケートなどで教師から意図的に与えられた視点とは異なり、子供たちの実生活の中から紡ぎ出された視点である。この視点をもとに、これまでの自分について振り返ったり、これからの自分を展望したりすることができるような授業を展開すれば、在りたい自分になることを目指した子供たちの自主的・実践的な活動につながるだろうと考えた。

また、AI テキストマイニングは文章を入力すると多様な解析結果が返されるが、今回、子供たちの意識の分析方法として活用したのは、「ワードクラフト」と「共起キーワード」である。ワードクラフトとは、「スコアが高い単語を複数選び出し、その値に応じた大きさで図示するもの」である。スコアとは、与えられた文書の中でその単語がどれだけ特徴的であるかを表すものである。また、単語の色は品詞の種類で異なっており、青色が名詞、赤色が動詞、緑色が形容詞、灰色が感動詞を表す。共起キーワードとは、「文章中に出現する単語の出現パターンが似たものを線で結んだ図」であり、出現数が多い語ほど大きく、また共起の程度が強いほど太い線で描画される。AI テキストマイニングを活用し、ワードクラフトと共起キーワードから子供たちの意識を分析することを試みる。

以上のような動機と目的、AI テキストマイニングを活用した分析方法から、第 6 学年 A 組 35 名分の個人のめあてを 1 つの文章として入力し、ワードクラフトと共起キーワードによって解析した結果が次の【資料 1】【資料 2】である。







上記の TC 記録を考察すると、子供たちが学校生活で目標達成のために意識している視点を自ら獲得できたこと (C1~C3) やその具体的な行動について考えることができたこと (C4~C7) がうかがえる。このような子供たちの発言をもとに、これまでの自分を振り返り、これからの自分を高めていくための視点を「挨拶・下級生・整理整頓・ノート・聞く・学力」6つに整理した。また、視点に応じた具体的な行動として「相手の気持ちや声を意識して挨拶ができていますか」などを設定し、Google のスプレッドシートで作成した個票【資料3】にタブレットで自己評価 (10段階スケール) を行った (赤枠)。さらに自己評価の結果をレーダーチャートで客観視させながら、各自、「特に伸ばしたい視点」を決めさせ、小集団で「在りたい自分になるために取り組むこと」を話し合う活動を仕組んだ (青枠)。以下は、時間外になったが、話し合い活動をもとに各自が考えた「在りたい自分になるために取り組むこと」をスプレッドシートに入力し、タブから選択できるようにシステム化された「これから自分が取り組むこと」に在りたい自分になるための具体的な行動目標を意思決定できるようにした (緑枠)。また、実践後には自分の成長が実感できるように実践後の自己評価がレーダーチャートに反映されるよう支援した。

		相手の気持ちや声を意識してあいさつができていますか	下級生のことを考えて優しく接しているか	友達が気持ちよく過ごせるように棚の整理整頓ができていますか	友達の意見をノートに書けているか	友達や先生の話をしっかり聞いているか	学力アップをめざして勉強できているか
ID	名前	あいさつ	下級生	整理整頓	ノート	聞く	学力
1		5	6	4	10	6	10
	みんなの平均	7.121212121	5.090909091	6.818181818	7.060606061	5.272727273	5.606060606
	実践後の自分						

  

在りたい自分 (2学期のめあて)	今、取り組んでいること
授業の時友達の意見と比べながら考えをまとめる 最高学年として低学年の手本となる 友達のよさを認め自分の考えに取り入れる 五分前着席 あいさつ 自分から行動できる自分	棚を整理整頓する 自主勉強5時間 目を見てあいさつ
特に伸ばしたい視点	これから自分が取り組むこと
あいさつ	学校を明るくするために教室移動のときにあいさつを
在りたい自分になるために取り組むべきこと	クラスを明るくするために朝休みに挨拶をする
自分も相手も気持ちよくなるようにいつでも挨拶をする	
自分のために家で自主勉強をできるだけする	
自分と相手のために整理整頓を心がける	

  

【資料3 スプレッドシートを活用した個票】

### ○成果と課題

AI テキストマイニングを活用して、子供たちの意識を分析した結果をもとに授業実践を行ったことは、教師の主観や経験を基にする感覚的な見取りにより意図的に構成された授業とは違った子供たちの自主的・実践的な反応を引き出すことができた。授業後の子供たちの感想、実践の様子からも意欲的に学習に取り組んだことが分かった。しかし、自主的・実践的な活動につながった要因はテキストマイニングによるものだけではなく、AI やタブレットの活用という目新しさも起因していたことも考えられる。今後は、テキストマイニングなど ICT 技術を特別活動にも積極的に取り入れた実践事例を増やしつつ、その効果についても検証していく必要があると考える。